

第65巻・第1号 平成29年1月1日発行

牧草と園藝

今こそ土づくりと自給飼料増産を頑張ろう!

2017年 1月

〈新年号〉



ごあいさつ



皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より弊社事業につきまして、特段のご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、日本の酪農・畜産業界を取り巻く環境は、平成27年秋に大筋合意されましたTPP（環太平洋パートナーシップ協定）の影響を受け、更なる混迷が予想される状況にあります。また穀物相場、円安基調による配合飼料価格の高止まりに加え、生産者の皆様の高齢化や後継者不足による酪農・廃業に歯止めがかからず、生産基盤の脆弱化はもとより地域コミュニティの存続さえ懸念される非常に厳しい環境にあります。

酪農・畜産の経営形態も家族経営から法人経営まで様々ありますが、より足腰の強い経営を持続していくことが、地方創生のおおきな礎になると考えております。そのためには自給飼料の更なる有効活用を推進し、安定した酪農畜産経営を確立させ、地域を守る創意工夫が必要になってくると感じています。そして安全・安心の食品を提供している国内農業に対して、消費者の方々に理解をいただく事も同時に進めなければならないと改めて思う所です。

弊社は創業者である黒澤酉蔵翁が提唱した「健土健民」を創業の精神とし、「農業奉公」を社

是とし、創業以来一貫として循環型農業を推進して参りました。平成27年4月から生乳生産を始めた、農業生産法人「株式会社TACSしべちゃ（北海道標茶町）」は、海外に依存しない自給飼料に立脚した経営を目指し、1年半が経過しました。この間に多くの方々に視察に来て頂き、ここに改めて御礼申し上げます。これからも地域環境に適した自給飼料の増産と有効活用を実証するとともに、持続可能な低コスト酪農の経営を目指し、草地管理技術、飼養管理技術の向上を進めると共に、新規就農者への研修支援などの課題にも取り組み、酪農の振興と地域の活性化に貢献したいと考えております。

持続可能な酪農・畜産経営とは、「土・草・牛」の循環を通じ、自然環境と調和をとりながら円滑に資源を循環させると言う事と考えております。弊社はその実現に向けて、積極的に課題に挑戦して参ります。

本年も長年に亘って培ってきた技術やノウハウを活かし、雪印メグミルクグループの一員として、酪農・畜産の生産現場に密着した商品と技術を取り揃え、皆様のご用命をお待ちしております。

今後とも、皆様のご健勝と益々のご繁栄を心からご祈念申し上げ、ご挨拶と致します。

健土健民

私たちは、創業者 黒澤酉蔵翁の精神『健土健民』を理想としています。

『健土健民』とは、

健全な土地が健全な食料をもたらし、健全な食料が健全な人間を形成するという農業があるべき基本的な姿を表しています。

私たちは、この理想を実現するために、自然・環境との共生を常に意識して行動します。

平成29年 元旦

雪印種苗株式会社

代表取締役社長 赤石 真人